オープンキャンパス×探究学習で志望度の高いファンづくりを

東京都市大学

CASE STUDY

高校生が大学教員と一緒に探究に取り組むイベント「オープンミッション」。オープンキャンパスとも出張講義とも異なる高大接続イベントの狙いを聞く。

入試部長
菅沼 直治
すがぬまなおはる●1990年学校法人五島育英会に入職。東横学園女子短期大学・就職課、武蔵工業大学・教務課を経て、2006年大学統合推進化事務室で1法人内2大学統合実務を担当。新学部事務・教務・財務課を経て、2017年より現職。

年内入試を拡充し第1志望の学生を獲得

武蔵工業大学を前身とし、理工系の学科が多い本学は、これまで、教科学力を問う一般選抜を入試の主軸としてきました。しかし、一般選抜の受験生は基本的には他大学との併願者です。一方、年内入試の受験者は、基本的に第1志望で大学に対する目的が明確です。一般的には学力不足が課題視されますが、年内入試の見直しを重ねてきた本学では、入試方式別の入学後の成績は、今や一般でも年内でも大きな差はありません。教員からは、「総合型選抜をさらに特徴づけて拡充し、*全学横断型PBL教育に向く学生を増やしたい」という声もあがるようになりました。このような現場の要望や、入試区分別追跡調査結果、高大接続改革の政策の流れなどをくみ、年内入試での入学者を従来の3割から5割程度にまで引き上げ、志望度の高い学生を獲得する戦略へとシフトすることにしたのです。

ここで重要なのは年内入試のハードルを下げないことと、本学の学びに合う志願者を育てるシナリオづくりでした。そのヒントになったのが、協定校への探究学習支援でした。

今、高校では、探究学習のリソースを大学に期待することも多くなってきました。しかし、各高校の求めに応じて対応していくのでは負荷が大きくなるばかりです。そこで大学キャンパスに高校生に来てもらい、大学の研究施設・設備や図書館を体感し、高度な探究学習を提供するプログラムをメニュー化しました。その成果が年内入試に生かせるとなれば取り組みの真剣さも高まります。イベントの名称は「オープンキャンパス」と、課題対応を想像させる〝ミッション〟を組み合わせ、高校生に親しみやすいネーミングにしました。

教員の負担軽減の工夫で教職協働の探究学習支援

オープンミッションでは、まず各学科がミッション（課題）を提示します。参加者は「ドローンでイノベーションを起こそう」「まちの『ならでは』を探究しよう」など、動画で公開された17課題の中から自分のミッションを選び、個人ワーク、大学でのレクチャーやグループワークなどを経て、8月上旬に最終成果発表に臨みます。発表後は教員が講評し、総合型選抜でも活用できる修了証明書を発行します。

オープンミッションのテーマ設定は、各学科に一任。TAを手配する予算を確保し、参加者への最終評価は口頭のみにするなど、教員の負担軽減にも努めました。

初年度は187人の高校生（うち高3生162人）が参加。総合型選抜の出願者467人中135人がオープンミッションの参加者でした。出願者数の増加の面では前年を上回り、数の面では一定の成果があったものの、学科によっては、イベントでの評価と入試での評価に差が出るなど、互いの連動には改善の余地があります。

2年目は、告知の前倒しやミッションのブラッシュアップ、探究学習の教材として高校単位での受け入れも行います。探究学習を通して、「東京都市大で学びたい」という本学のファンづくりに取り組んでいきます。

*SD PBL（Sustainable Development Project organized Problem Based Learning）
持続可能な社会の発展に資する人材育成という教育目標のための全学横断型PBL

取材・文／本間学　撮影／亀井宏昭

キャンパス／東京都世田谷区、神奈川県横浜市
学生数／7,851人
学部／理工、建築都市デザイン、情報工、環境、メディア情報、デザイン・データ科学、都市生活、人間科学
大学院／総合理工学、環境情報学
THE世界大学ランキング2023／1501+位、同日本大学ランキング2022／141-150位、同インパクトランキング2022／601-800位

探究でつながる高大接続の取り組み例

課題	志望度の高い入学者を獲得するための年内入試の拡充
推進体制	入試部が企画し、全学部長で構成される入学センターに提案し、決定。ミッションの設定、参加者の指導は学科に一任する一方、教員に過度な負担がかからないよう、ミッション動画作成やTA、備品の手配等において適切な予算を手当て。教職協働のワークシェア体制を整えている。
高校との関係づくり	大学で、高校教員向け入試情報説明会を開催。オープンミッションの結果報告や自学の入試情報の提供のほか、新課程入試の動向など、高大の共通の課題について意見交換を実施。教育への志が同じ私立高校や探究学習に熱心な公立校中心に、協定校を開拓中。
入試の工夫	受講後に発行される修了証明書を、総合型選抜の出願書類「自己アピール申請書」として活用可能。取り組んだミッションにかかわらず、どの学部・学科でも出願できる。次年度以降は、生徒が活動の成果をまとめるフォーマットも用意し、入試でアピールしやすくすることも検討。

自学のファン（＝第1志望）を育てる探究学習支援と入試との連動

4-6月　事前課題〈個人ワーク・Web〉
Webサイトに公開されたミッション動画を見て、「参加理由書・課題計画書」を作成し、申込。その後、テーマ毎に探究ワークまでの指示がある。

▼

6月　探究ワーク〈レクチャー・対面〉
取り組んだミッション（宿題）について、教員もしくは研究室の学生から課題に関するレクチャー等を受け、内容を掘り下げる。

▼

7月　自由研究〈個人ワーク・Web〉〈グループワーク・対面〉
8月に行われる成果発表に向けて、「個人ワーク」「グループワーク」を実施。図書館利用や教員・学生からのアドバイスを受けることも可能。

▼

8月　成果発表〈発表・対面〉
取り組んだ成果を発表。教員から評価コメントと修了証明書を発行。修了証明書は総合型選抜で提出資料として利用できる。

▼

連動する年内入試
①総合型選抜（書類選考のない1段階選抜制）
特色ある学科・教育課程プログラムに連接する入試
②総合型選抜（書類選考ありの2段階選抜制）
当該学科に関する基礎学力・適性・学習意欲・目的意識を有しているとともに、特別な能力や豊富な活動経験を有する活力ある者を受け入れる入試
③学校推薦型選抜（指定校制、公募制）
※いずれもオープンミッションの修了証明書を出願書類として活用可能、①②は併願可

※2022年度のプログラム・入試の場合

注目！ 高校生だけでなく保護者、高校教員も。オープンミッション展開の中でファンを拡大

オープンミッションの特徴は“手ぶら”では参加できない点だ。参加者は事前課題に解答を用意したうえで、大学で探究ワークに取り組む。例えば、「まちの『ならでは』を探究しよう」というテーマでは、「街灯の形が違うのはなぜか」というテーマで探究ワークに臨んだ生徒がいた。教員とのやり取りの中で、商店街の特徴や設備にかける予算によって違いが出ることに気づき、考察を深めていったと言う。自由研究の期間は大学図書館を利用することができ、高校生が大学生活を体感する機会になっている。保護者の同行も許可したところ、約3割の保護者が参加し、大学のPRの機会になったそうだ。

初年度のオープンミッションの成果は、高校教員向けに、大学で行った入試情報説明会で指導に当たった教員や学生が自ら報告。この会では、新課程入試に向けた大学と高校の状況、課題などについて議論し、クリッカーでアンケートを取るなどして、双方向の意見交換を行った。事後アンケートの結果では非常に満足度が高く、高校教員のファンづくりにつながったという。

（上）参加希望者は動画を視聴後、「参加理由書・課題計画書」を作成して申し込むしくみに。（左下）探究ワークの様子。（右下）盛況だった高校教員向け入試情報説明会。